

修学マニュアル

琉球大学工学部 工学科 社会基盤デザインコース

URL <http://civil.tec.u-ryukyu.ac.jp/>

学籍番号

氏 名

目 次

1. はじめに	1
2. 社会基盤デザインコースの教育理念とカリキュラム・ポリシー	1
2.1 教育理念	1
2.2 育成する技術者像	1
2.3 カリキュラム・ポリシー	2
3. JABEE（日本技術者教育認定機構）認定教育プログラム	3
3.1 学習・教育到達目標/ディプロマ・ポリシー	3
3.2 学習・教育到達目標とカリキュラムとの対応	4
3.3 学習・教育到達目標とJABEE基準との対応	4
3.4 学習・教育到達目標の達成度評価法	4
3.5 URGCCの学習教育目標	8
4. 教職員の紹介	9
《居室配置図》	10
5. 成績評価について	11
6. 卒業要件、卒業研究着手条件および研究室配属方法	12
6.1 卒業要件	12
6.2 卒業研究着手条件	13
6.3 研究室配属方法	13
7. 教育支援	14
7.1 オフィスアワー	14
7.2 年次懇談会について	14
7.3 保険について	14
7.4 学習室について	15
7.5 連絡事項について	15
8. 取得資格および受験資格	15
8.1 取得資格および受験資格について	15
8.2 教員免許状（工業）の取得について	15
9. 進路紹介	16
10. その他	18
JABEE 認定証	19
学習・教育到達目標達成度チェックシート	20

1. はじめに

本修学マニュアルは、琉球大学工学部工学科社会基盤デザインコースに入学した学生が、円滑に勉学及び研究を進められるように、本コースにおける履修法の概要を説明するとともに、卒業までに必要な各種情報を提供するものです。学生生活を円滑に送るためのマニュアルとして「学生便覧」とともに活用して下さい。

本冊子の2章には「社会基盤デザインコースの教育理念とカリキュラム・ポリシー」、3章には「JABEE 認定教育プログラム」、4章には「教職員紹介」、5章には「成績評価」、6章には「卒業要件、卒業研究着手条件および研究室配属方法」、7章には「教育支援」、8章には「取得資格および受験資格」、9章には「進路紹介」、10章には「その他」が記載されています。

2. 社会基盤デザインコースの教育理念とカリキュラム・ポリシー

2.1 教育理念

琉球大学は、「自由平等、寛容平和」という建学の精神を継承・発展させて、「真理の探究」、「地域・国際社会への貢献」、「平和・共生」を基本理念としています。「真理の探究」とは、地域特性を活かした国際的水準の個性的・独創的な学術研究を推進することにより、自然や社会との調和のとれた総合的学術研究の新しい価値体系を探り、その構築を目指すものです。「地域・国際社会への貢献」とは、地域の特性を活かした教育研究活動を通して、地域社会及び国際社会のニーズに適切に対応し、地球社会における相互理解および社会発展に貢献することです。また、「平和・共生」とは、平和こそ人類が求めうる最高の理念であり、平和の追求を本学の使命の1つとして位置づけるとともに、新しい知の創造をとおして教育研究の場で国際平和と地球環境の整備・保全等の21世紀の人類が直面する課題解決に寄与し、人類の福祉向上に貢献することです。

2.2 育成する技術者像

以上の認識の下、社会基盤デザインコースでは、「琉球大学の基本理念」、「社会の要請」、「学生の要望」を考慮して、独自の教育プログラムを設定し、下記のような人材の養成を目的としています。

- 1) 自然環境と調和のとれた、ゆとりある社会システムを構築するために、社会基盤施設の計画・設計・建設・管理に必要な知識を習得した人材。
- 2) 人文科学・自然科学・社会科学を工学によって関連づけて理解し、実社会において物事を多面的（時間的・空間的・文化的、そして工学的）に捉え、積極的に問題を解決できる人材。
- 3) 亜熱帯島嶼という地域特性を活かした教育・研究により、人類と自然環境との共生や社会基盤デザイン技術者の社会的責任（技術者倫理）を理解し、地域・国際社会へ積極的に貢献できる人材。

琉球大学工学部工学科社会基盤デザインコースでは、平成20年度に上記に示す教育理念のもと JABEE（日本技術者教育認定機構）認定を受けています。

2.3 カリキュラム・ポリシー

本プログラムでは地域特性を活かした教育及び島嶼社会から国際社会までの多様な社会的ニーズに対応できる教育を行うことを目的に、人文社会科学・自然科学を学び、その上で社会基盤デザインに関する専門技術に関する能力を身に付けます。

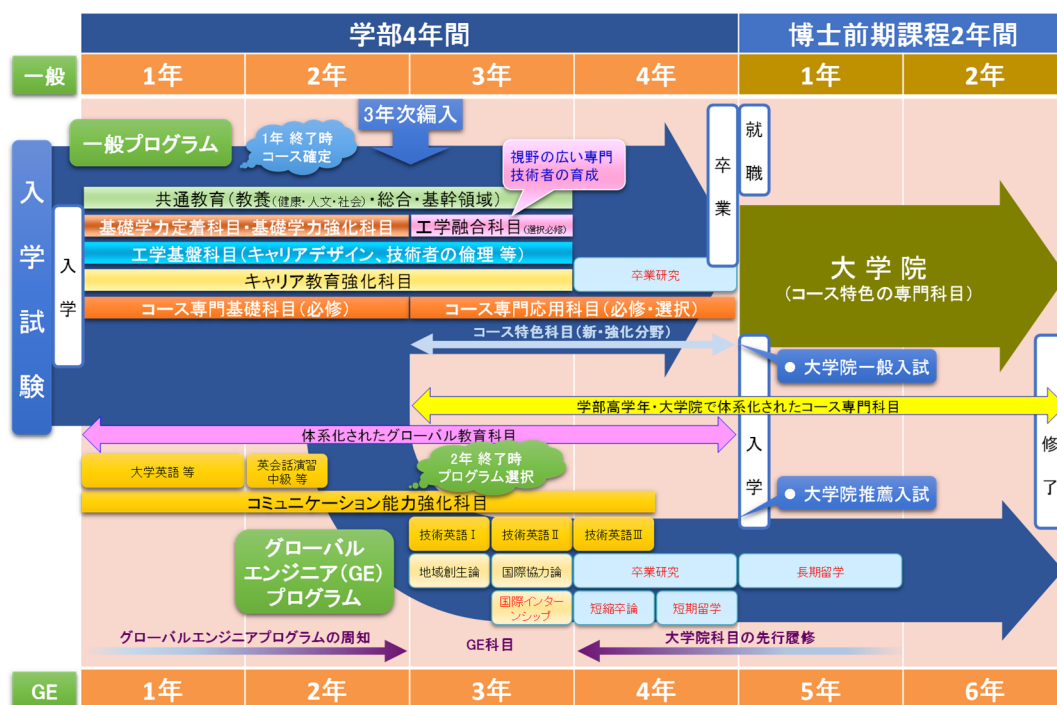
1年次では、人文・社会・自然科学に関する幅広い教養及び語学力向上のための基幹科目、数学・物理等の専門基礎科目を中心に学ぶとともに、専門教育の導入科目の基礎流体力学が提供されます。

2年次では、社会基盤デザインに関する専門科目である社会システム計画学、構造力学、水理学、土質力学、建設材料学、情報処理解析法、シミュレーション工学、測量学などが提供されます。

3年次では、社会基盤デザインに関する応用専門科目である都市地域計画、減災計画、鋼構造工学、海岸工学、地盤工学、コンクリート構造工学、社会基盤デザイン実験、マテリアルズ・インフォマティクスなどが提供されます。また、より幅広い知識と複眼的な視点を身に付けることを目的に、工学科の他コースの専門科目も提供され、成績優秀者はグローバルエンジニアプログラム（GE プログラム）に志願することができます。GE プログラムでは学際的かつグローバルな視点とコミュニケーション能力、及び時代のニーズに貢献できる高度な技術力を兼ね備えた国際教養人の育成を目的に、英語を中心とした語学力・コミュニケーション能力、国際協力論・地域創生論等に関する科目、国際インターンシップや留学等が提供されます。

4年次では、卒業研究をとおしてこれまで身に付けてきた知識を活用する能力を身に付けるとともに、課題発見・解決能力及びコミュニケーション能力を身に付けます。

なお、本コースは、日本技術者教育認定機構（JABEE）の認定を受けており、国際的な水準を有する教育システムとなっており、本 JABEE 教育プログラムを修了した者（卒業生）は、技術士一次試験が免除されるとともに、海外で活躍できる国際的技術者として認定を受けることができます。



3. JABEE（日本技術者教育認定機構）認定教育プログラム

日本技術者教育認定機構（JABEE：Japan Accreditation Board for Engineering Education / 設立1999年11月19日）は、技術系学協会と密接に連携しながら技術者教育プログラムの審査・認定を行う非政府団体のことで、大学など高等教育機関で実施されている技術者教育プログラムが、社会の要求水準を満たしているかどうかを外部機関が公平に評価し、要求水準を満たしている教育プログラムを認定する専門認定（Professional Accreditation）制度です。なお、JABEEによって認定された教育プログラムを修了した者は技術士第一次試験が免除されます。JABEEについての詳細は、JABEE ホームページ（<http://www.jabee.org/>）にあります。

なお、本社会基盤デザインコースが設定する教育プログラムの内容は以下のとおりです。

3.1 学習・教育到達目標/ディプロマ・ポリシー

社会基盤デザインコースの学習・教育到達目標は、表に示すとおりです。

表-3.1 社会基盤デザインコースの学習・教育到達目標

(A)多面的理解：	物事を多面的に考えられるための人文・社会科学の素養
(B)技術者倫理：	亜熱帯島嶼地域の自然・社会環境を理解するとともに、社会基盤デザインの実社会に対する影響や効果を理解し、技術者としての社会的責任（技術者倫理）を考える素養
(C)基礎能力：	実社会で直面する様々な問題に対応するため、社会基盤デザインの基礎となる数学・自然科学および情報処理に関する知識とその応用能力
(D)専門技術：	社会基盤デザインの主要専門分野である社会システム計画学、水圏環境工学、地盤環境工学、構造設計工学、建設材料学の基礎および応用能力と継続的な自己学習能力
(E)デザイン能力：	社会の要求を解決するために、社会基盤デザインの専門技術や情報処理技術を利用し、個人・チームでデザインする能力
(F)表現力：	日本語によって物事を論理的に記述し、プレゼンテーションを行う能力
(G)外国語能力：	国際的に活躍するために、英語およびその他の外国語の基礎、コミュニケーションおよび情報獲得能力
(H)問題解決能力：	与えられた制約の下で、自ら課題を発見し、課題を解決するための研究を計画的に遂行し、その結果をまとめ、チームで仕事をするための能力

3.2 学習・教育到達目標とカリキュラムとの対応

社会基盤デザインコースの学習・教育到達目標とカリキュラムの対応を表-3.2 に示します。この表に挙げられている科目は、JABEE が求める要件への対応科目になります。本コースの卒業条件を満足すると JABEE 認定教育プログラムの修了が認められます。なお、本コースのカリキュラムの詳細については、学生便覧(https://rais.skr.u-ryukyu.ac.jp/dc/?page_id=665)を参照して下さい。

3.3 学習・教育到達目標と JABEE 基準との対応

琉球大学工学部工学科社会基盤デザインコースは、平成 20 年度に JABEE 認定を受けています。JABEE が求める学習・教育到達目標に対して本コースが設定する学習・教育到達目標は、表-3.3 に示す対応関係になっています。

3.4 学習・教育到達目標の達成度評価法

●達成度の評価法

各学習・教育到達目標に対する達成度の評価は、それぞれの目標に対応づけられた必修科目の総単位数に対する取得した必修科目の合計単位数の割合で評価されます。割合が 100%になること、すなわち各目標に割り付けられた全ての必修科目を単位取得することで、それぞれの目標は達成されることとなります。しかし、各目標に関連する科目には選択科目も対応づけられているため、それらの取得単位数も含めて、達成度は 100%を超えるように履修することが推奨されます。卒業に必要となる選択科目の単位数は、学生便覧等で確認してください。

■学習・教育到達目標達成度の確認

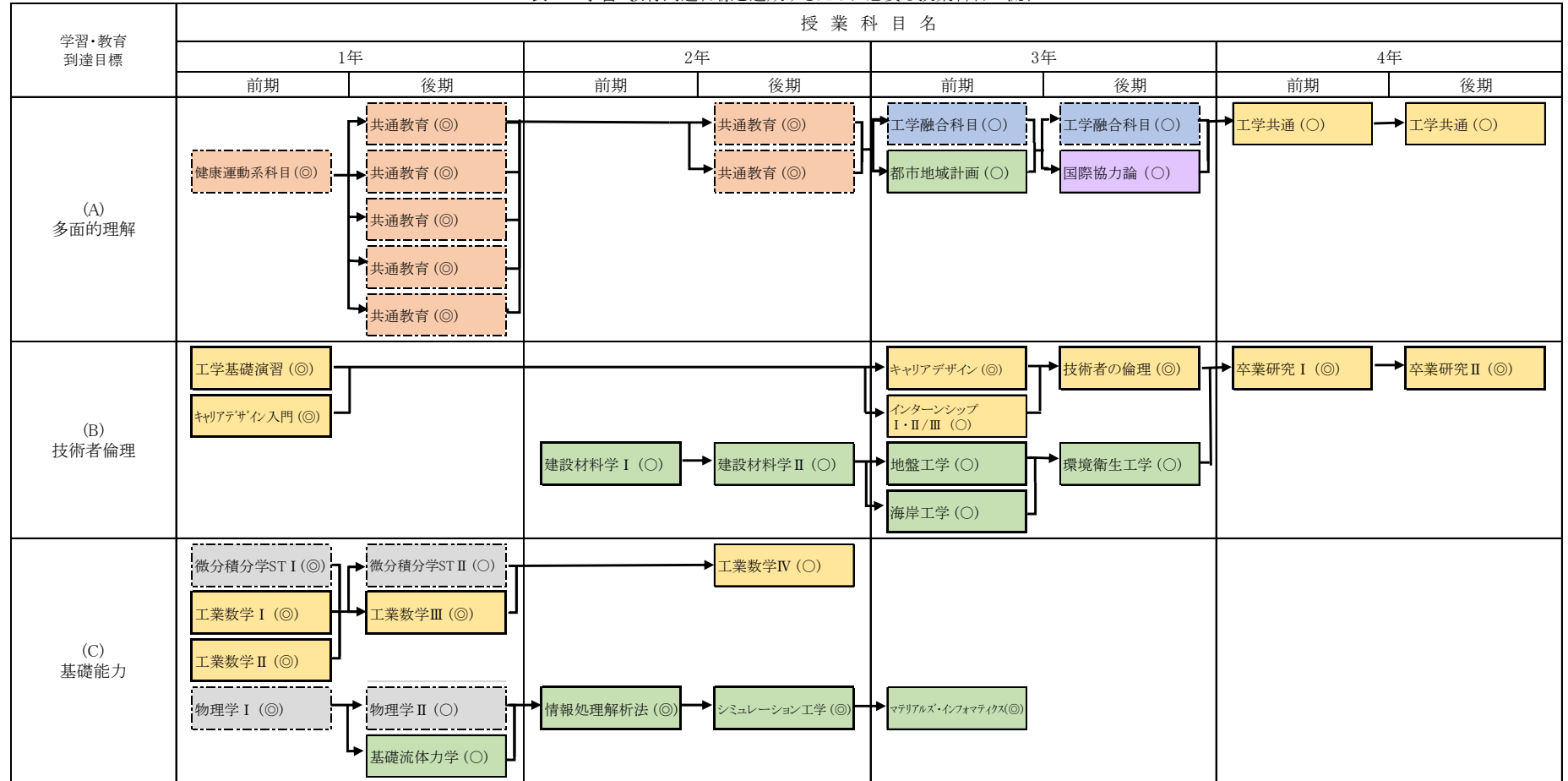
本コースが設定するそれぞれの学習・教育到達目標について、学生は、巻末にあるチェックシートを基に、毎学期、自らの達成度を確認しなければなりません。単位取得科目についてマークすると共に、その科目の最終評価（A、B、C、D、F）を記入することで、単位取得済みの科目と評価が明示できます。さらに、達成度欄に目標別の取得単位数の合計を記入し、それぞれの目標に対する現時点での達成度がチェックできます。

チェックシートの下段の表には、各学期で取得した共通科目及び専門科目に対する取得科目の単位数の合計や評価（GPA）の記入欄もあります。この表を作成することで、卒業に必要な専門科目及び共通科目などの取得単位数及び総合的評価のチェックが、学期ごとに可能となります。

チェックシートに記載された単位取得科目やそれらに対する評価、単位数、各目標に対する達成度などを総合的に評価し、履修状況の確認、課題の発見と改善などに自ら努めなければなりません。

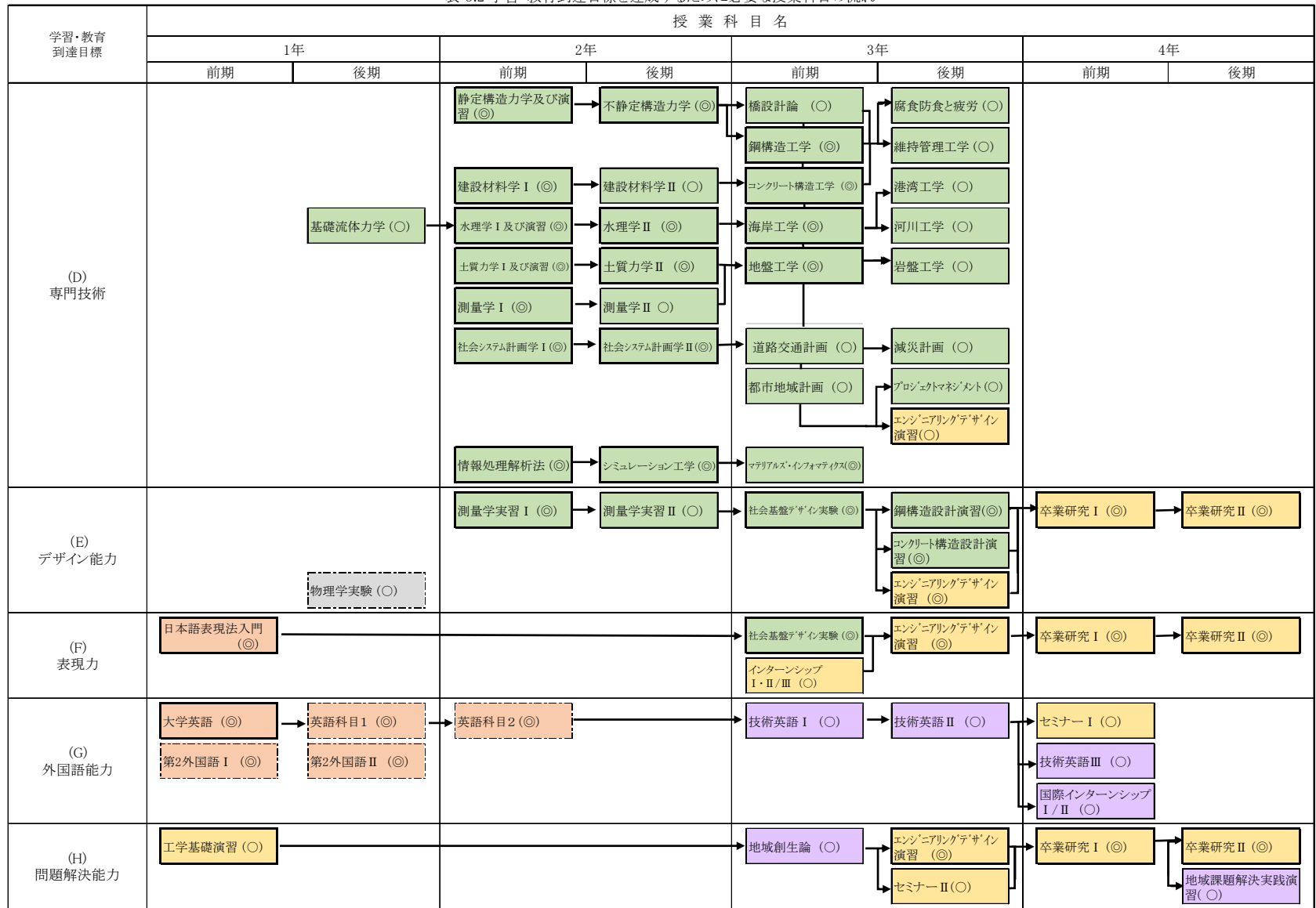
毎学期、履修登録の指導教員確認印をもらう際には、正しく必要事項を清書したチェックシートを持参の上、指導教員による履修指導等を受けなければなりません。

表-3.2 学習・教育到達目標を達成するために必要な授業科目の流れ



必修科目
 選択必修科目
 選択科目
 ◎: 特に重要な位置づけにある科目、○: 重要な位置づけにある科目
共通教育科目
専門基礎科目
工学共通科目
工学共通科目(GE)
工学融合科目
コース専門科目

表-3.2 学習・教育到達目標を達成するために必要な授業科目の流れ



必修科目
 選択必修科目
 選択科目
 ◎:特に重要な位置づけにある科目、○:重要な位置づけにある科目
共通教育科目
専門基礎科目
工学共通科目
工学共通科目(GE)
工学融合科目
コース専門科目

表-3.3 社会基盤デザインコースの学習・教育到達目標と JABEE 基準との対応

基準 1(2)の 知識・能力 観点 学習・教育 到達目標	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)	(f)	(g)	(h)	(i)
(A)	◎								
(B)		◎			○		○		
(C)			◎	◎					
(D)				◎	○		◎		
(E)		○		○	◎		○	○	◎
(F)						◎			
(G)						◎			
(H)				◎	◎	○	○	◎	◎

- (A) 多面的理解：物事を多面的に考えられるための人文・社会科学の素養
 (B) 技術者倫理：亜熱帯島嶼地域の自然・社会環境を理解するとともに、社会基盤デザインの実社会に対する影響や効果を理解し、技術者としての社会的責任（技術者倫理）を考える素養
 (C) 基礎能力：実社会で直面する様々な問題に対応するため、社会基盤デザインの基礎となる数学・自然科学および情報処理に関する知識とその応用能力
 (D) 専門技術：社会基盤デザインの主要専門分野である社会システム計画学、水圏環境工学、地盤環境工学、構造設計工学、建設材料学の基礎および応用能力と継続的な自己学習能力
 (E) デザイン能力：社会の要求を解決するために、社会基盤デザインの専門技術や情報処理技術を利用し、個人・チームでデザインする能力
 (F) 表現力：日本語によって物事を論理的に記述し、プレゼンテーションを行う能力
 (G) 外国語能力：国際的に活躍するために、英語およびその他の外国語の基礎、コミュニケーションおよび情報獲得能力
 (H) 問題解決能力：与えられた制約の下で、自ら課題を発見し、課題を解決するための研究を計画的に遂行し、その結果をまとめ、チームで仕事をするための能力

JABEE 基準

- (a) 地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養
 (b) 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者の社会に対する貢献と責任に関する理解
 (c) 数学、自然科学及び情報技術に関する知識とそれらを活用する能力
 (d) 当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを活用する能力
 (e) 種々の科学、技術及び情報を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力
 (f) 論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力
 (g) 自主的、継続的に学習する能力
 (h) 与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力
 (i) チームで仕事をするための能力

3.5 URGCC の学習教育目標

琉球大学では、学士としての質を保証するため、グローバル・シティズン(21世紀型市民)を養成するための教育プログラム(琉大グローバル・シティズンカリキュラム(URGCC))を導入しています。URGCC(琉大グローバルシティズン・カリキュラム)とは、自ら課題を設定し、考え、解決する能動的な学習方法です。URGCCでは、下記に示す7つの学習教育目標があり、社会基盤デザインコースの学習・教育到達目標との対応関係は表-3.4の通りです。

● 自律性	自分自身が掲げる目標の達成に向けて、自律的に学習し行動することができる。
● 社会性	市民として社会の規範やルールを理解し、倫理性を身につけ、多様な人々と協調・協働して行動できる。
● 地域・国際性	地域の歴史と自然に学び、世界の平和および人類と自然の共生に貢献することができる。
● コミュニケーション・スキル	言語(日本語と外国語)とシンボルを用いてコミュニケーションを行い、自分の考えや意思を明確に表現することができる。
● 情報リテラシー	幅広い分野の情報や知識を多様なチャンネルから収集し、適切に理解した上で取捨選択し、活用することができる。
● 問題解決力	批判的・論理的に思考するとともに、これまでに獲得した知識や経験等を総合して問題を解決することができる。
● 専門性	専攻する学問分野における思考法、スキル、知識等を体系的に身につけ、活用することができる。

表-3.4 社会基盤デザインコースの学習・教育到達目標と URGCC 学習教育目標との対応

URGCC 社会 基盤 デザイン コース	自立性	社会性	地域・ 国際性	コミュニ ケーショ ン・スキル	情報リテ ラシー	問題 解決能力	専門性
(A)	○	○	○	○	○		
(B)	○	○	○				
(C)	○				○		
(D)	○						○
(E)	○			○	○	○	○
(F)	○			○	○		○
(G)	○		○	○			
(H)	○			○	○	○	○

4. 教職員の紹介

社会基盤デザインコースのスタッフは表-4.1 に示す教員および表-4.2 に示す職員で構成され、年次ごとに指導教員が決められています。令和6年度入学者の指導教員は、福田朝生准教授、入部綱清助教です。

表-4.1 教員紹介

研究室	氏名	役職	専門分野	居室	内線
社会システム計画学	あんどう てつや 安藤 徹哉	教授	都市・地域計画、景観設計	工2-505	8656
	かみや だいすけ 神谷 大介	准教授	都市計画学、環境計画、防災計画	地-609B	8653
水圏環境工学	ふくだ ともお 福田 朝生	准教授	水理学、河川工学、計算力学	工2-403	8663
	いりべ つなきよ 入部 綱清	助教	流体力学、水理学、計算力学	工2-405	8667
地盤環境工学	いとう たかし 伊東 孝	教授	地盤工学、岩盤力学	工1-305	8672
	まつぼら ひとし 松原 仁	教授	地圏工学、計算力学	工1-303	8652
構造設計工学	しもざと てつひろ 下里 哲弘	教授	橋梁工学、維持管理工学	工2-209	8666
建設材料学	とみやま じゅん 富山 潤	教授	建設材料学、維持管理工学、計算力学	工2-308	8649
	すだ ゆうや 須田 裕哉	准教授	建設材料学	工2-307	8570

※学外から電話をかける場合は、「098-895-内線番号」とします。

※居室番号、例えば「工1-308」は、工学部1号館の308号室を意味します。

表-4.2 技術職員および学科事務職員

	氏名	居室	内線
技術職員	ふちわき ひであき 淵脇 秀晃	工2-302	8641
	ひろせ こうざぶろう 廣瀬 孝三郎		
	ひがしふなみち ゆうすけ 東 舟道 裕亮	工1-307	8642
とよだ そうた 豊田 颯太			
学科事務	おおしろ ななこ 大城 奈々子	工1-306	8640

【居室配置図】

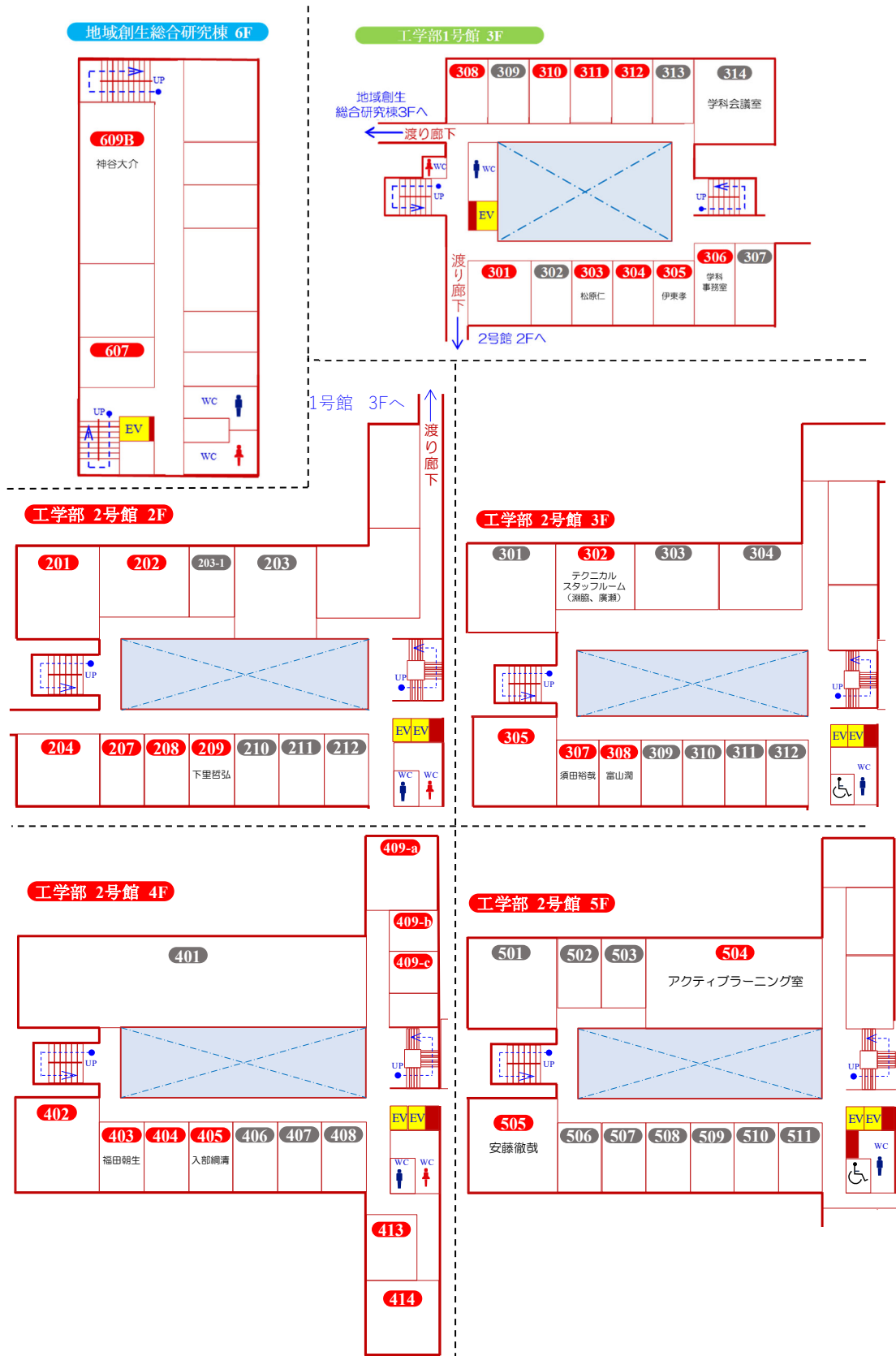


図-4.1 居室配置図

5. 成績評価について

授業科目の成績は、琉球大学学則の24条の規定により、A、B、C、D及びFの5種類によって評価されます。なお、A、B、C及びDは合格を、Fは不合格を表します。インターンシップはPを合格とし、Fを不合格とします。（琉球大学学則）

成績評価の基準は次の表-5.1に示す通りです。

表-5.1 成績評価の基準

評 語	評 点
A	90点～100点
B	80点～89点
C	70点～79点
D	60点～69点
F	59点以下

なお、授業開始後 30 分以内を遅刻と見なし、3回の遅刻を1回の欠席として取り扱います。また、30分より遅れた場合は欠席扱いとなります。授業科目の授業総時数の3分の1以上欠席した者にはその授業科目の単位は与えられません（琉球大学各学部共通細則）。

6. 卒業要件、卒業研究着手条件および研究室配属方法

6.1 卒業要件（社会基盤デザインコース）

1. 共通教育

教養領域

健康運動系科目 ----- 2 単位以上

人文系科目 ----- 2 単位以上

社会系科目 ----- 2 単位以上

自然系科目

総合領域

総合科目

キャリア関係科目 ----- 2 単位以上

琉大特色・地域創生科目

基幹領域

情報関係科目（日本語表現法入門） ----- 2 単位以上

外国語科目「大学英語」を含む英語 ----- 8 単位以上

英語以外の外国語 ----- 4 単位以上

又は、

「大学英語」を含む英語 ----- 12 単位以上

14 単位以上

30 単位以上

2. 専門基礎教育 ----- 4 単位以上

専門基礎科目（微積分学 ST I、同 II、物理学 I、同 II、物理学実験）
（先修科目）

3. 専門教育

専門科目

（必修）

工学共通科目 ----- 21 単位

コース専門科目 ----- 38.5 単位

（選択）

工学共通科目 ----- 32.5 単位以上

コース専門科目

工学融合科目 ----- 4 単位以上

96 単位以上

合計 130 単位以上

※1 人文および社会系科目からそれぞれ 2 単位以上、総合領域の中から 2 単位以上修得しなければならない。

自然系科目は 2 単位まで卒業単位に含めることができる。

※2 卒業要件に係る専門基礎科目を、4 単位を超えて修得した場合は、※1 の要件を満たした上で、2 単位を上限として人文・社会系

科目または総合領域の単位として卒業単位に含めることができる。

※3 他コース専門科目から修得した単位は 6 単位まで選択科目として卒業単位に含めることができる。

※4 外国人学生には琉球大学共通教育等履修規程第 8 条により次の特例を認める。

（1）共通教育の人文系，社会系，自然系，総合，キャリア関係，琉大特色・地域創生のうち、4 単位まで日本事情科目で読み替えることができる。

（2）英語以外のひとつの外国語科目（4 単位）を日本語科目で読み替えることができる。

※5 基礎数学 I、同 II は卒業要件の単位に含めない。

※6 工学融合科目群のうち、1 つのコースから選択必修を含む 4 単位以上を履修する。

※7 鋼構造設計演習，コンクリート構造設計演習から 1 科目以上修得すること。

※8 インターンシップ科目は 2 単位まで（国際インターンシップを含めると 4 単位まで）を卒業単位に含めることができる。

※9 卒業研究を履修するためには、以下の条件をすべて満たす必要がある。

・共通教育、専門基礎教育、専門教育の区別なく、卒業要件を満たすために今後修得しなければならない単位数が、卒業研究を含めて合計 20 単位以下であること。

・卒業研究 I・II 以外の専門必修の未修得科目数が 4 科目以下であること。

・社会基盤デザイン実験の単位を修得していること。

・鋼構造設計演習，もしくは，コンクリート構造設計演習の単位を修得していること。

※10 「(全教 412) 教職実践演習 (高)」については、専門科目の選択科目として卒業単位に含めることができる。

6.2 卒業研究着手条件

卒業研究を履修するためには、以下の条件をすべて満たす必要がある。

- ・ 共通教育、専門基礎教育、専門教育の区別なく、卒業要件を満たすために今後履修しなければならない単位数が、卒業研究も含めて合計 20 単位以下であること。
- ・ 卒業研究以外の専門必修の未修得科目数が 4 科目以下であること。
- ・ 社会基盤デザイン実験の単位を修得していること。
- ・ 鋼構造設計演習、もしくは、コンクリート構造設計演習の単位を修得していること。

6.3 研究室配属方法

研究室配属は、本人の希望、GPA、大学院への進学を考慮して決定します。

なお、GPA は下式によって算出され、成績表にも記されています。

$$GPA = \frac{\sum_{i=1}^m i \text{科目の成績ポイント} \times i \text{科目の単位数}}{\text{登録総単位数}}$$

ここで、 m は受講科目数です。成績ポイントは、A が 4 ポイント、B が 3 ポイント、C が 2 ポイント、D が 1 ポイント、F が 0 ポイントです。

ただし、3 年次編入学生については、高専等での成績を考慮に入れた GPA 算出とする。高専の評価基準が 4 段階評価（優、良、可、不可）の場合、本学の 5 段階評価（A、B、C、D、F）に照らして、次のように評価します。

優：3.5 ポイント、良：2 ポイント、可：1 ポイント、不可：0 ポイント

7. 教育支援

7.1 オフィスアワー

社会基盤デザインコースでは、学生の学業や学校生活全般に関する質問、相談あるいは個人的な指導のための時間帯（オフィスアワー）を設定しています。それぞれの教員が設定するオフィスアワーは、各講義のシラバスに掲載されています。シラバスに掲載されているメールアドレスに連絡し、事前にアポイントメントを取ることをおすすめします。

7.2 年次懇談会について

本コースでは指導教員と学生との連携を密にし、学生生活全般にわたり意見を交換することを目的に年次懇談会が実施されます。実施日程や方法については指導教員から連絡がありますが、実施場所は教室で行うことを原則としています。また、主な懇談事項は下記の通りです。

主な懇談事項

- (a) 修学相談・履修指導（共通教育、専門、教職科目）
- (b) 進路相談（就職、進学）
- (c) カリキュラム等に関する学生のニーズ調査
- (d) 交通事故防止（通学方法、事故防止の自覚、マナー向上、学内交通指導等）
- (e) 構内環境美化
- (f) 近況報告（生活状況、健康状況、課外活動、奨学金、アルバイト等）
- (g) 学生教育研究災害傷害保険の加入
- (h) その他
 - ・ 体育祭への参加について
 - ・ 暴風警報発令に伴う授業の取扱いについて

7.3 保険について

社会基盤デザインコースでは、実験・実習、演習や実技を含む授業など、カリキュラムの一部に若干の危険を伴う科目があります。また、通学時などの日常生活においても、不測の事故がないとも限りません。このため、入学と同時に何らかの保険に加入することとしています。

学内で加入手続きを取ることのできる保険としては以下の種類があります。

①学生総合共済＋学生賠償責任保険：

学生本人の病気、事故・ケガや父母・扶養者の死亡時等に保険金が支払われます。また、日常生活、正課、学校行事、実習等で事故（人身、物損）を起こしてしまった時にも保険金が支払われます。大学生協で加入できます。

②学研災付帯賠償責任保険＋学生教育研究災害傷害保険（内外学生センター）：

学生が正課、学校行事及びその往復途中に他人を傷つけたり、物を壊したりしたときに保険金が支払われます。また、大学の教育研究活動中の事故により身体に傷害を被った場合や通学・学内移動中の事故に対しても保険金が支払われます。学生部で受け付けています。

7.4 学習室について

学生が自由に学習できる場として2号館5階504室があります。講義で使用している場合を除く9時～17時まで勉学の場として利用できます。利用にあたっては、他の学生に迷惑をかけること、また教室内を清潔かつ安全に扱うことを原則とします。この原則を守れない利用者に対しては、利用を制限する場合があります。

7.5 連絡事項について

学生への連絡事項等は、社会基盤デザインコースの掲示板に貼り出します。本コースの掲示板は、2号館4階（エレベータを降りた正面）にあります。授業や学務、就職に関する連絡事項等が掲示されるので、講義の合間に適宜確認してください。

また、教務情報システムに奨学金などの情報が掲載されています。就職や研究室配属に関する情報は教務情報システムのメッセージ機能を用いて連絡されます。各講義については web class(<https://webclass.cc.u-ryukyu.ac.jp/>)なども利用されます。細目に確認して下さい。

8. 取得資格および受験資格

8.1 取得資格および受験資格について

工学科社会基盤デザインコースを卒業もしくは単位取得した者に対し、与えられる資格および受験資格は次のようなものがあります。

- 1) 技術士補：JABEE 認定プログラム修了生に関しては、登録資格が与えられます。技術士補登録後、技術士の下で実務を4年以上経験したものには、技術士に対する二次試験の受験資格が与えられます。
- 2) 測量士補：所定の単位を修得した者に対し、登録申請の資格が与えられ、国土地理院へ登録することにより、測量士補となることができます。測量士補登録後、1年以上の実務経験を有する者は、登録申請により測量士となることができます。
注：申請には、測量学I、測量学II、測量学実習I、測量学実習IIの単位取得が必要です。
- 3) 土木学会2級技術者：大学院、大学に在籍またはそれらを卒業していること。ただし、資格登録時には、1年以上の実務経験年数（大学院在籍も実務経験と見なします）を有していることが必要となります。
- 4) 2級土木施工管理技師：卒業後、1年の実務経験年数を有する者に受験資格が与えられます。

8.2 教員免許状（工業）の取得について

本コースでは高等学校教諭一種免許状（工業）の免許を取得することができます。このためには、卒業要件以外に必要な科目を履修する必要があります。詳細は、工学部学務係に確認してください。

9. 進路紹介（卒業生の主な進路）

社会基盤デザインコース卒業生の主な進路としては、官公庁（公務員）、民間企業、大学院への進学などがあります。官公庁は土木事業の主な発注元で、広範な土木分野の知識を求められます。民間企業は、主に計画の策定や設計を担当する建設コンサルタントと、設計・施工を担当する建設会社（ゼネコン）とに分かれます。民間企業への就職を希望する場合、遅くとも3年後期の時点で情報収集などを始める必要があります。各年次の指導教員が随時、就職・進学などの相談にも応じていますので、気軽に相談するようにして下さい。

高度な専門技術及び知識を身に付けておくため、大学院への進学を希望する学生も増えています。一部の企業では、大学院の修士課程を修了していないと入社試験を受けられない場合があります。

本学大学院の入学試験は、推薦特別選抜（7月頃）、一般選抜（8月頃）、一般選抜2次募集（1月頃）に行われます。英語については（TOEFL®-PBT、TOEFL®-iBT、TOEFL®-ITP、TOEIC®、TOEIC®-IP）その中の最高スコア（有効期限は2年）を以て評価されます。詳しくは工学部事務室まで問い合わせして下さい。

○ 過去5年の卒業生の進路

【2023年度】

・官公庁など

近畿地方整備局、沖縄総合事務局（院1）、沖縄県、那覇市、沖縄市、NEXCO西日本（院1）、Department of Public Works and Highways, Philippines（院1）

・総合建設業（ゼネコン）

株式会社大林組（院1）、大成建設株式会社（院2）、五洋建設、株式会社前田工業建設、三井住友建設株式会社、東急建設株式会社、東亜建設工業株式会社（院1）、株式会社鴻池組、株式会社不動テトラ、川田建設株式会社、川田工業株式会社（院1）、極東興和株式会社（院1）、オリエンタル白石株式会社、あおみ建設株式会社（院1）、株式会社ピーエス三菱（院1）、日本橋梁株式会社、若築建設、仲本工業、有限会社MUI景画（院1）、宮地エンジニアリング株式会社（院1）、岳南建設株式会社、須山建設株式会社

・建設コンサルタント

八千代エンジニアリング株式会社、株式会社建設技研インターナショナル、株式会社ウエスコ、日本空港コンサルタンツ株式会社、サンコーコンサルタント株式会社、福山コンサルタント株式会社、株式会社ホープ設計

・その他

株式会社りゅうせき、沖縄セルラー電話株式会社、沖縄振興開発金融公庫、Japan Advanced Semiconductor Manufacturing 株式会社（院1）

・進学

琉球大学大学院、熊本大学大学院、東京都立大学大学院

【2022 年度】

- ・官公庁など
九州地方整備局、中国地方整備局、沖縄総合事務局、沖縄県、那覇市役所、浦添市、安城市、NEXCO 西日本
- ・総合建設業（ゼネコン）
川田建設、IHI インフラ建設、山田建設、三井住友建設、日本ピーエス、極東興和、若築建設、第一ダイヤモンド工事、戸田建設、不動テトラ
- ・建設メーカー
ジャパンパイル株式会社
- ・建設コンサルタント
日水コン、日本インフラマネジメント、国建、中央建設コンサルタント
- ・その他
グッドライフ、セキスイハイム東海
- ・進学
琉球大学大学院、熊本大学大学院

【2021 年度】

- ・官公庁など
沖縄総合事務局、沖縄県、静岡県、長崎県、宮崎県、那覇市、熊本市、大分市、西日本高速道路エンジニアリング九州
- ・総合建設業（ゼネコン）
沖電工、佐伯建設、河北、五洋建設、銭高組、川田建設、岡本工業（院1）、大成建設（院1）
- ・建設メーカー
琉球セメント
- ・建設コンサルタント
大日本コンサルタント、建匠コンサルタント、中電技術コンサルタント（院1）
- ・進学
琉球大学大学院

【2020 年度】

- ・官公庁など
沖縄県、愛媛県、福山市、長崎市、大分市、西日本高速道路、
- ・総合建設業（ゼネコン）
大日本土木、不動テトラ、渡辺組、あおみ建設、國場組、川田建設、五洋建設、奥村組（院1）
- ・建設メーカー
ヤマックス、琉球セメント、塩浜工業（院1）
- ・建設コンサルタント

基礎地盤コンサルタンツ、中央建設コンサルタント（院1）、日本工営（院1）、中電技術コンサルタント（院1）

- ・その他

ドン・キホーテ、りゅうせき

- ・進学

琉球大学大学院

【2019年度】

- ・官公庁など

内閣府沖縄総合事務局、九州地方整備局、防衛省、沖縄県、大阪府、熊本県、愛媛県、愛知県、大分県、柏市、読谷村、沖縄市、中部電力（院1）

- ・総合建設業（ゼネコン）

横河ブリッジ、富士ピー・エス、大日本土木、鴻池組、大鉄工業

- ・建設メーカー

IHI インフラシステムズ（院1）

- ・建設コンサルタント

ホープ設計、セントラルコンサルタント、八千代エンジニアリング（院1）、荻原吉次土地家屋調査事務所（院1）、綜企画設計（院1）

- ・その他

マーキュリー、エフアンドエム、ネットワーク

- ・進学

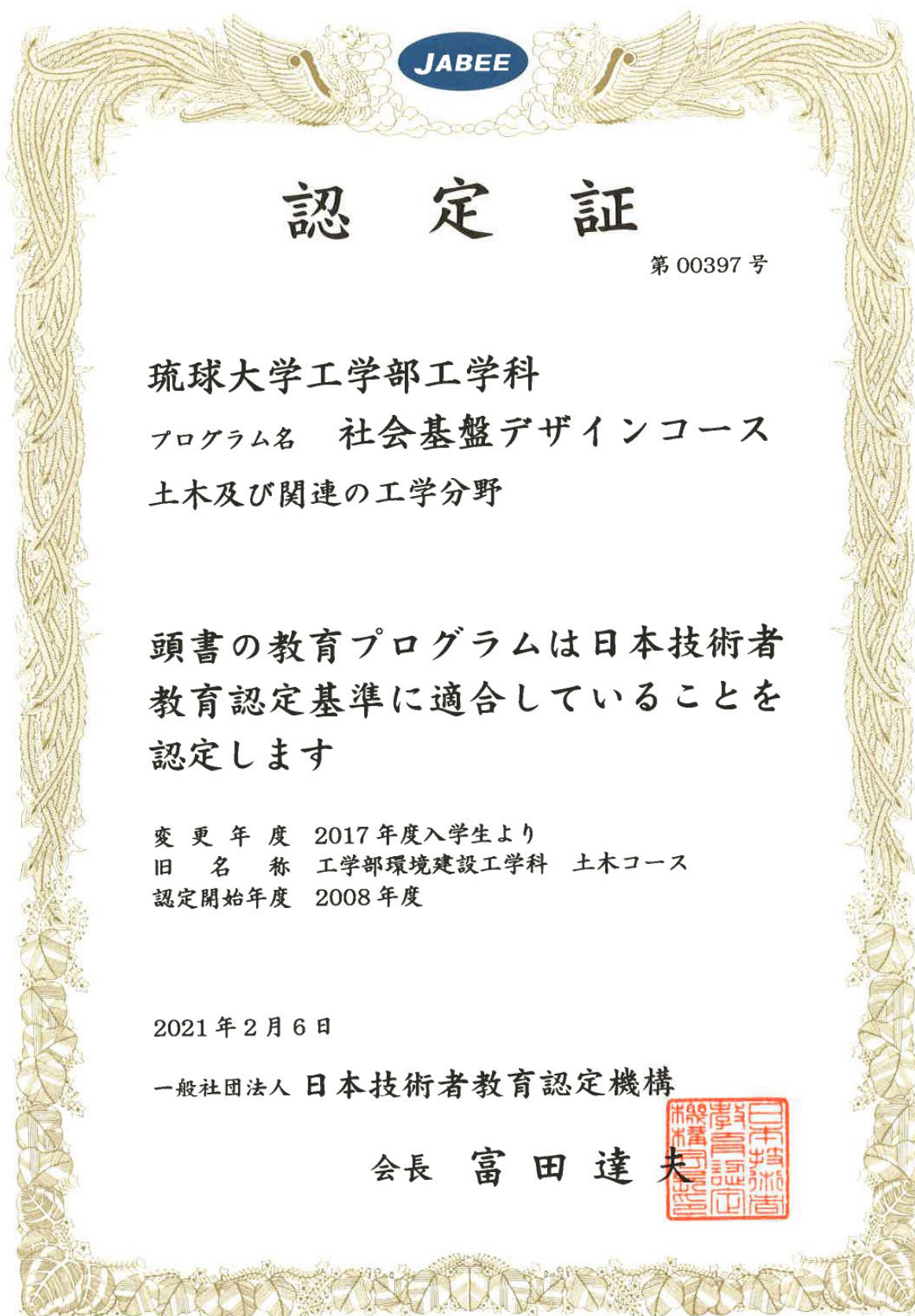
琉球大学大学院、信州大学大学院

※院は大学院卒を表し、数字は人数を示します。

10. その他

社会基盤デザインコースの場合、科目によっては携帯型（ノート型）パソコンの持参が必須になる授業もあります。また、レポートなどもパソコン処理を必要とするような課題を与えられることもあります。したがって、社会基盤デザインコースの学生は、授業に持参できる携帯型のパソコンを購入しておく必要があります。例えば、2年生前期に提供される情報処理解析法では、Microsoft Excel を使ったデータ解析技術、プログラミング環境の設定法、C言語によるプログラミング技術の基礎を学ぶことになっています。したがって、携帯型のパソコンを購入するにあたっては、最低限、上記のアプリケーションが動く環境でなければなりません。

その他、修学上の疑問点があれば、気軽に指導教員に相談してください。



学習・教育到達目標	1年		2年		3年		4年		達成度
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
(A) 多面的理解	健康運動系科目(◎) 2[]	共通教育(◎) 2[] 共通教育(◎) 2[] 共通教育(◎) 2[] 共通教育(◎) 2[]	共通教育(◎) 2[] 共通教育(◎) 2[]	共通教育(◎) 2[] 共通教育(◎) 2[]	工学融合科目(○) 2[] 都市地域計画(○) 2[]	工学融合科目(○) 2[] 国際協力論(○) 2[]	工学共通(○) 2[]	工学共通(○) 2[]	【 】/20 ()
(B) 技術者倫理	工学基礎演習(◎) 2[] キャリアデザイン入門(◎) 1[]		建設材料学Ⅰ(○) 2[]	建設材料学Ⅱ(○) 2[]	キャリアデザイン(◎) 2[] インターンシップⅠ・Ⅱ/Ⅲ(○) 1/2[] 地盤工学(○) 2[] 海岸工学(○) 2[]	技術者の倫理(◎) 2[] 環境衛生工学(○) 2[]	卒業研究Ⅰ(◎) 3[]	卒業研究Ⅱ(◎) 3[]	【 】/19 ()
(C) 基礎能力	微分積分学STⅠ(◎) 2[] 工業数学Ⅰ(◎) 2[] 工業数学Ⅱ(◎) 2[] 物理学Ⅰ(◎) 2[]	微分積分学STⅡ(○) 2[] 工業数学Ⅲ(◎) 2[] 物理学Ⅱ(○) 2[] 基礎流体力学(○) 2[]	工業数学Ⅳ(○) 2[] 情報処理解析法(◎) 2[]	シミュレーション工学(◎) 2[]	マテリアルズ・インフォマティクス(◎) 2[]				【 】/14 ()
(D) 専門技術		基礎流体力学(○) 2[]	静定構造力学及び演習(◎) 3[] 建設材料学Ⅰ(◎) 2[] 水理学Ⅰ及び演習(◎) 3[] 土質力学Ⅰ及び演習(◎) 3[] 測量学Ⅰ(◎) 2[] 社会システム計画学Ⅰ(◎) 2[] 情報処理解析法(◎) 2[]	不静定構造力学(◎) 2[] 建設材料学Ⅱ(○) 2[] 水理学Ⅱ(◎) 2[] 土質力学Ⅱ(◎) 2[] 測量学Ⅱ(○) 2[] 社会システム計画学Ⅱ(◎) 2[] シミュレーション工学(◎) 2[]	橋設計論(○) 2[] 鋼構造工学(◎) 2[] コンクリート構造工学(◎) 2[] 海岸工学(◎) 2[] 地盤工学(◎) 2[] 道路交通計画(○) 2[] 都市地域計画(○) 2[] マテリアルズ・インフォマティクス(◎) 2[]	腐食防食と疲労(○) 2[] 維持管理工学(○) 2[] 港湾工学(○) 2[] 河川工学(○) 2[] 岩盤工学(○) 2[] 減災計画(○) 2[] プロジェクトマネジメント(○) 2[] エンジニアリングデザイン演習(○) 2[]			【 】/37 ()

学習・教育到達目標達成度チェックシート

学籍番号

氏名

学習・教育到達目標	1年		2年		3年		4年		達成度
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
(E) デザイン能力		物理学実験(○) 1[]	測量学実習Ⅰ(◎) 1.5[]	測量学実習Ⅱ(○) 1.5[]	社会基盤デザイン実験(◎) 2[]	鋼構造設計演習(◎) 2[] コンクリート構造設計演習(◎) 2[] エンジニアリングデザイン演習(◎) 2[]	卒業研究Ⅰ(◎) 3[]	卒業研究Ⅱ(◎) 3[]	【 】/13.5 () ()
(F) 表現力	日本語表現法入門(◎) 2[]				社会基盤デザイン実験(◎) 2[] インターンシップⅠ・Ⅱ/Ⅲ(○) 1/2[]	エンジニアリングデザイン演習(◎) 2[]	卒業研究Ⅰ(◎) 3[]	卒業研究Ⅱ(◎) 3[]	【 】/12 ()
(G) 外国語能力	大学英語(◎) 4[] 第2外国語Ⅰ(◎) 2[]	英語科目Ⅰ(◎) 2[] 第2外国語Ⅱ(◎) 2[]	英語科目2(◎) 2[]		技術英語Ⅰ(○) 2[]	技術英語Ⅱ(○) 2[]	セミナーⅠ(○) 1[] 技術英語Ⅲ(○) 2[] 国際インターンシップⅠ/Ⅱ(○) 1/2[]		【 】/12 ()
(H) 問題解決能力	工学基礎演習(○) 2[]				地域創生論(○) 2[]	エンジニアリングデザイン演習(◎) 2[] セミナーⅡ(○) 1[]	卒業研究Ⅰ(◎) 3[]	卒業研究Ⅱ(◎) 3[] 地域課題解決実線演習(○) 2[]	【 】/10 ()

必修科目

選択必修科目

選択科目

◎:特に重要な位置づけにある科目、○:重要な位置づけにある科目

- ・各学期の授業登録の際、上記シートに成績等を記入し、指導教員に提出すること。
- ・各科目の[]には成績評価(A,B,C,D,P)を記入すること。Fの場合は記入しない。
- ・達成度欄の【 】および()内にはそれぞれ、当該目標の取得必修単位数および全取得単位数を記入すること。

科目分類	学籍番号				氏名			
	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	3年前期	3年後期	4年前期	4年後期
1. 共通教育								
教養領域または、総合領域								
健康運動系 ①	() / 2	() / 2	() / 2	() / 2	() / 2	() / 2	() / 2	() / 2
人文系 ②	() / 2	() / 2	() / 2	() / 2	() / 2	() / 2	() / 2	() / 2
社会系 ③	() / 2	() / 2	() / 2	() / 2	() / 2	() / 2	() / 2	() / 2
総合, キャリア関係, 琉大特色, 地域創生 ④	() / 2	() / 2	() / 2	() / 2	() / 2	() / 2	() / 2	() / 2
小計 ⑤=②+③+④	() / 12	() / 12	() / 12	() / 12	() / 12	() / 12	() / 12	() / 12
自然系 ⑥	() / -	() / -	() / -	() / -	() / -	() / -	() / -	() / -
小計 ⑦=⑤+⑥	() / 14 [-]	() / 14 [10]	() / 14 [10]	() / 14 [14]	() / 14 [14]	() / 14 [14]	() / 14 [14]	() / 14 [14]
基幹領域								
情報関係 (日本語表現法入門) ⑧	() / 2 [2]	() / 2 [2]	() / 2 [2]	() / 2 [2]	() / 2 [2]	() / 2 [2]	() / 2 [2]	() / 2 [2]
外国語								
大学英語を含む英語 (*1) ⑨	() / 8 [4]	() / 8 [6]	() / 8 [8]	() / 8 [8]	() / 8 [8]	() / 8 [8]	() / 8 [8]	() / 8 [8]
英語以外の外国語または, (*1) 以外の英語 ⑩	() / 4 [2]	() / 4 [4]	() / 4 [4]	() / 4 [4]	() / 4 [4]	() / 4 [4]	() / 4 [4]	() / 4 [4]
小計 ⑪=①+⑦+⑧+⑨+⑩	() / 30 [10]	() / 30 [24]	() / 30 [26]	() / 30 [30]	() / 30 [30]	() / 30 [30]	() / 30 [30]	() / 30 [30]
2. 専門基礎教育								
専門基礎科目 (先修科目) ⑫	() / 4 [2]	() / 4 [4]	() / 4 [4]	() / 4 [4]	() / 4 [4]	() / 4 [4]	() / 4 [4]	() / 4 [4]
3. 専門教育								
専門科目								
必修								
工学共通 ⑬	() / 21 [7]	() / 21 [9]	() / 21 [9]	() / 21 [9]	() / 21 [11]	() / 21 [15]	() / 21 [18]	() / 21 [21]
コース専門 ⑭	() / 38.5 [-]	() / 38.5 [-]	() / 38.5 [18.5]	() / 38.5 [28.5]	() / 38.5 [38.5]	() / 38.5 [38.5]	() / 38.5 [38.5]	() / 38.5 [38.5]
選択								
工学共通 + コース専門 ⑮	() / 32.5 [-]	() / 32.5 [2]	() / 32.5 [4]	() / 32.5 [9.5]	() / 32.5 [16.5]	() / 32.5 [31.5]	() / 32.5 [32.5]	() / 32.5 [32.5]
工学融合 ⑯	() / 4 [-]	() / 4 [-]	() / 4 [-]	() / 4 [-]	() / 4 [2]	() / 4 [4]	() / 4 [4]	() / 4 [4]
小計 ⑰=⑬+⑭+⑮+⑯	() / 96 [7]	() / 96 [11]	() / 96 [31.5]	() / 96 [47]	() / 96 [68]	() / 96 [89]	() / 96 [93]	() / 96 [96]
合計=⑪+⑫+⑰	() / 130 [19]	() / 130 [39]	() / 130 [61.5]	() / 130 [81]	() / 130 [102]	() / 130 [123]	() / 130 [127]	() / 130 [130]
年次・学期別GPA								
評価 (指導教員のコメント)								

- ・各学期の授業登録の際、上記シートに成績等を記入し、指導教員に提出すること。
- ・「/」記号の右隣の数値は卒業要件を示す。
- ・[]内の数値は、4年後期に卒業要件を満たすように設定した、履修の目安となる累加修得単位を示す。